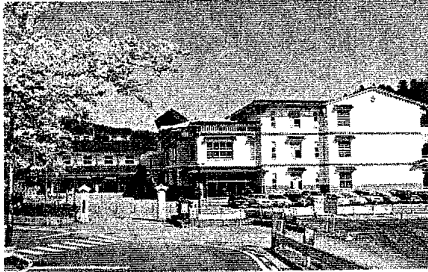


情報ファイル



伝統文化に親しみながら郷土愛を深め、
心豊かに生きる子どもの育成

5年「八尾町の四季を音楽で表そう」

—越中おわら節・八尾曳山囃子 他—

富山県八尾町立八尾小学校

1 はじめに

本校では、平成9年度と平成10年度の2年間にわたり、文部省より「伝統文化推進事業」の推進指定地域の指定校として、研究推進に努めてきた。学校教育目標に「心身共に健康で、創造性豊かな実践力のある子どもの育成」を掲げ、「強く、やさしく、礼儀正しい心の育成」を重点として豊かな心を育む教育を進めた。その豊かな心は、子どもの生活の基盤である生活圏の中で、日々の実践や体験を通して育まれてこそ豊かに高められるものであると考える。

幸いにも、本校は、越中おわら・八尾曳山・八尾和紙という伝統的な文化が継承され、人々の心の支えともなる優れた環境の中にある。春には「曳山祭り」、秋には「おわら風の盆」というように、地域の一員としての役割を担ってそこに加わり、親しみながら育ってきている子どもが多い。

このような恵まれた環境の中で、地域素材や地域人材を取り入れた学習や活動を展開し、その在り方を工夫していく。このことによって、当たり前のこととして触れていたことの中で知らなかったことを知り、我がふるさとのよさに改めて気づき、伝統文化に対する子どもたちの関心が高まり、ふるさとを愛する心を育てることができるのではないかと考えた。


2 指導にあたって

本校では、教育課程の創造の一つとして協働指導（T・T）体制による学年合同学習を効果的に活用するとともに教育ボランティアによる地域人材の活用を通して、子どもも教師も学習課題にのめり込む展開を追究している。

5年の音楽科「八尾町の四季を音楽で表そう」でもこのことを生かして学習を進めた。「八尾町の四季」というテーマの基に、「越中おわら節」や「曳山囃子」を自分の思いや願いを大切にしながら演奏していくことで、改めてそれらのよさに気付いていくことができるようにし、また、一方では、子どもたちが八尾町への思いやイメージを音を通して表現していこうとする創造的な活動を取り入れることによって、八尾町を愛する心を

高めるとともに音楽活動に取り組む楽しさ、喜びを味わえるようにと願った。

3 全体計画並びに活動計画

子 ど も の 活 動	
<p>第一次 ふくらませ、共通化する (7時間) 八尾町への思いやイメージを</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 八尾の四季について、自慢できることやよさについて思っていることを発表し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>八尾の四季を音楽で表そう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 夏と冬のイメージの中で音で表すことのできるものを選ぶ。 ○ 八尾町の四季づくりについて学習の見通しをもつ。 ○ イメージしたことを基に四季ごとの4つのグループに分かれる。 ○ グループに分かれ、自分の興味をもったことやイメージしたことについて資料を集め、そのイメージを共通化する。 ○ 季節や自然の様子を表現した音楽や「管弦楽のための木挽き歌」, 「管弦楽のためのラブソディー」などの日本古来から伝わっている音楽を鑑賞する。
<p>第二次 つくり上げる (10時間) 工夫して思いやイメージに合った表現を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思いやイメージに合う音を探し、即興的に表現する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちの思いやイメージに合った音を見つけよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見つけ出した音を基にイメージに合った表現をつくり上げる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちの八尾町がうまく表れるように演奏しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いやイメージに合った擬音・擬声語・擬態語やメロディー・リズムなど様々な表現方法で表現する。 ○ グループごとに演奏し、お互いに表現を聴きあう。 <p>(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループの演奏を聴き、それぞれのよさを認め、共感し合う。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>
<p>第三次 てひとつのものにまとめる 八尾町の四季とし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの表現を見直し、よりよいものに高める。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちの表現したいことがうまく表れるよう更に演奏の工夫をしよう。それぞれの季節をつなげて、八尾町の1年を四季の音楽で表そう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの季節のつながぎを考えたり、始まりや終わりの音楽をつくったりするなど、全体の構成を工夫する。

(4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の組み合わせやバランスを考えながら、全体を通して演奏できるようにする。 ・ 自分たちの表現を見直す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">自分たちのつくった八尾町の四季を発表しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表会の形式や方法などについて話し合う。
-------	--

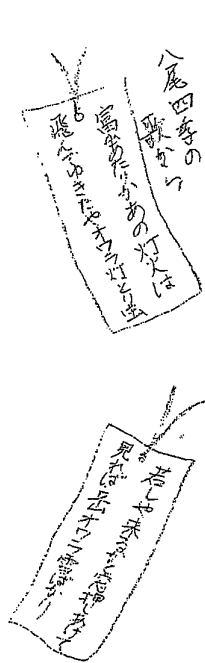
4 本時の学習

(1) ねらい

- ・ 八尾に対する自分の思いやイメージをしっかりとって、表したい様子や感じを工夫して表現することができる。
- ・ 友達の表現を聴いたり、いっしょに演奏したりしながら、自分たちの表現を見直すことができる。

(2) 展開の概要

学 習 活 動	主 な 発 問 と 児 童 の 反 応	考 察
1 自分たちの思いやイメージに合った表現を工夫する。	T 季節ごとのグループに分かれて、自分たちの思いやイメージに合った表現を工夫しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの表現づくりで工夫の要素（速さ・強弱・音色・リズム）を取り入れたり、自分たちの創作した所（間奏やナレーションなど）を確認しながら活動しているので自信をもって演奏することができた。 ・ 本時は、初めて4つのグループを通して聴いたので、互いに吟味し合うというところまでいかなかった。僅
2 本時のめあてをつかむ。	T ほくたち・わたしたちの八尾町がうまく表れるように演奏の工夫をしましょう。	
3 お互いの演奏を聴き合い、話し合う。	<p>C 私たちは、明るくてにぎやかな春の八尾町、特に曳山のにぎやかさを表します。（太鼓・シンバル・ビブラフォンなどで演奏）</p> <p>C ほくたちは、蛍が飛んでいる静かな夏の八尾町を表します。「ほたるこい」の三部輪唱に蛍が静かに光り輝いている所をペンライトを付けてみました。（歌とハンドベル・リコーダーなどで演奏）</p> <p>C 私たちは、秋の八尾町、おわらの素晴らしさや楽しさを歌と踊りと合奏で表します。（ピアノ・バスマスター・グロックン・鈴・木琴などで演奏）</p> <p>C ほくたちは、寒さの厳しい静かな冬の八尾</p>	



4 次時での見直しのめあてをもつ。

町を「つるのおん返し」と「かさじぞう」の2曲を使って表します。(ハンドベル・ツリーチャイム・トライアングル・口笛などで演奏)

T ほかのグループの演奏を聴いて、工夫していると思った所はなかったですか。

C 冬物語グループの人たちの口笛で吹いているときがすごかった。本当に吹雪が来そうな感じがしたというかこっちまで寒くなってきた。ぼくは、歌で夏のきれいな夜や蛍の様子を表そうとしているけど、こんな表し方もあるんだと思った。

(～省略～)

T 皆が創ってきたものを初めて聴き合ったけど、もう一回聴いてみたいと思う人はいる？

C ほとんど全員

C 次の時間に今度は聴いてみたいグループからもう1回皆で聴いてみましょう。

かながら出てきた発言から考えると、子どもたちは、夏や冬の多様な表現方法の工夫に目を向ける方が多かった。しかし、それは、八尾町の自然や伝統文化を心の底にもちながらの自分たちの創作であったと思われる。

4 成果と今後の課題

(1) 魅力ある教材開発

子どもにとって魅力ある教材とは、夢やロマンが広がるもの、自分のイメージで自由にアレンジできるもの、様々な表現形態が取り入れられるもの、やりたいことが自由にできるものであると考える。地域に伝わる民謡を子どもたちが生活の中で親しんでいる音楽として教材化することで、自分の思いを寄せて積極的に働き掛ける姿を見ることができた。

(2) 表現と鑑賞が一体となった教材選択の工夫

音楽活動における表現と鑑賞との関係は、本来表裏一体の関係にあるものであり、両者は決して別々に機能するものではないと考える。「越中おわら節」の生の演奏や「曳山囃子」を自分の八尾町に対する思いをしっかりとって改めて聴くことで、自分たちなりの表現を創り上げていこうとする姿が見られた。

(3) 学習は発達段階に応じた生活圏で

子どもの思考範囲、行動範囲は「三里四方」の生活圏の中に根本がある。本校は、自然も文化も人材も産業もすべてにおいて子どもたちが学ぶ場として最適である。教師は、それに創造的に挑戦していかなければならない。

(富山県八尾町下笹原5320 TEL0764-54-3105)